

第13回 只見の自然に学ぼう会

失われゆく文化、郷土料理
崩壊していく、あたりまえの暮らし、コミュニティー
被災地の生きものたちの調査から
見えてくる、フクシマの現実

2016年11月20日(日)
19:00-21:00
只見振興センター 2F 第1会議室

どなたでも聴講いただけます

講演会 3・11後の浜通り、相双地区の現実

震災と原発事故 そして生きものたち

津波で被災した南相馬市沿岸部では、かつての埋め立て地が地震による地盤沈下により海水が流入し、汽水湖に戻った



稲葉 修 いなば・おさむ

1967年茨城県生まれ。南相馬市博物館学芸員。福島県内を主なフィールドとして魚類、両生類などの調査、研究を行う。震災・原発事故の直後から相双地区の現状をつぶさに観察し、調査を続けてきた。

郷土料理の「がにまき」
撮影：川崎悠



津波で被災した南相馬市・真野小学校(現在は閉校)



除染作業の進む水田



津波被災地に咲く左からコハマギク、ミズアオイ、シャリンバイ
復興工事によって各地で自生地が消滅する問題をかかえている

主催 只見の自然に学ぼう会

[お問合せ] 只見の自然に学ぶ会事務局 TEL.0241-82-3242 (渡部方)

[会場] 只見振興センター TEL.0241-82-2141

福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591番地の30